

# 定時制の灯を守ろう！

NO. 81

2004.12.7

守る会連絡会便り

都立定時制高校を守る会・連絡会

URL: <http://homepage3.nifty.com/save-teiji/>

連絡会事務局発行

## 都教委 来年度の大幅な募集停止を発表！！

10月28日(木)都教委は来年度の生徒募集について策定し、夜間定時制14校(九段・三田・戸山・小石川・向丘・八潮・青山・文京・北多摩・昭和・小石川工・芝商・一商・北多摩)の募集停止を発表しました。また、通学場所変更として新たに武蔵を加えるなど、これまで繰り返し要請してきた内容を一切無視した決定となっています。このまま推移すれば今年度第六学区で生じた、残された夜間定時制が定員を超えるような事態も危惧される事態となっています。全日制についても13校(荻窪・志村・水元・清瀬東・久留米・農林・向島工・砧工・八王子工・台東商・向島商・四谷商・第二商)が募集停止になります。また来年度募集予定校として夜間定時制9校(上野・両国・墨田川・小岩・小松川・農林・世田谷工・王子工・台東商)、全日制3校(玉川・小石川工・上野忍岡)を発表しました。

## 10.29 都教委要請報告

10月29日(金)11時から都庁第二庁舎で守る会・連絡会の都教委要請が行われた。



都側からは改革推進担当課長、係長、副参事2人が出席した。まず森代表が要請書の概要を説明し、「2年前の統廃合計画については、認められないという気持ちは変わらない。この2年間の推移を見ると多くの問題が起こりつつある。要請を受け止めていただきたい」と申し入れ、要請書を手交し、寺川副代表の司会で進行しました。

両国守る会： 両国については都教委が発表しているので触れないが、大江戸の開校に絡んで定員がオーバーしている事態が進んでいる。学区別の中学の進路状況では中学生が第一次で進路未定は607人いる。6%以上が進路未定になっている。これは大江戸の開校に関係していると判断している。来年度は5校が募集停止になるので、更にこの状況が厳しくなると考えられる。昨年の両国が出した都議会請願でも事態が変わったら再検討すると言われている。再検討すべき事態だ。

中央線沿線の守る会： 要望を都にしたばかりなので内容をご存じだと思う。荻窪の開設と同時に中央線沿線の夜間定時制が募集停止になる。もし荻窪の昼夜間に落ちたら行き場がなくなる。大江戸の状況を聞けば私たちの主張が正しいと思われる。荻窪の校舎の耐震補強工事に関連してプレハブで授業をやるというが荻窪の1・2年制は在校生に迷惑をかけることになっている。10年になると新しい昼夜間が開校されるが6月末まではプレハブが残っていることになる。荻窪の校舎の古さも問題がある。補強すると土台の弱さをどう補強するかという問題もある。基盤の調査もしないというがそれで良いのか。新しい校舎が震災の場合にどうなるか不安が残る。地域の避難場所にもなっている。19年開校には無理がある。もしやるなら立て替えてやるべきだ。そのためにも延期して19年から改築して安全な校舎を造って、新しい学校を立ち上げるべきだ。そうすると他の部分にも大きな影響が出るので計画そのものを抜本的に見直すべきだ。

都教委： 私どもも頭を痛めている点もある。定時制の教育と生徒の実態を踏まえて検討していく。44校潰すというがまだ55校残っている。いつでも生徒がこられるようにしている。ご理解を頂きながら一つずつ進めていきたい。

6学区の状況について、大江戸が開校し、かなりの倍率になった。大江戸の後期の枠が狭いこともあり、一部溢れた。トータルで見れば別のところに進学したと判断している。またコンセプトが分からずに入試を受けた方もいた。チャレンジや新たなタイプでは前期に40

## 拡大幹事会のお知らせ

日時：

1月15日(土)

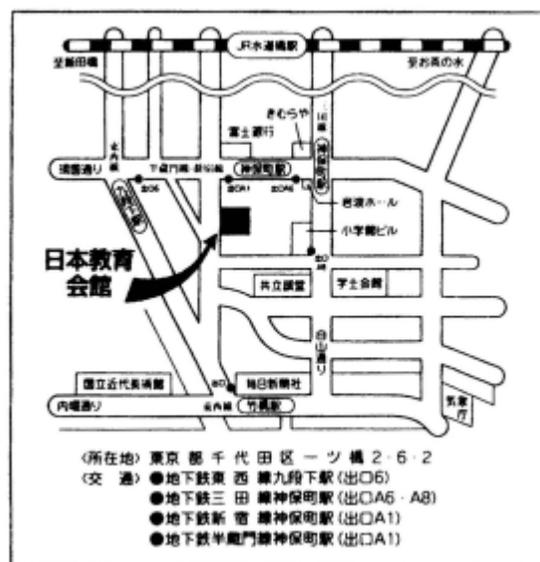
6時半～

会場：日本教育会館  
7F(都高教会議室)

議題：各守る会の交流  
都教委要請とその後の都教委の  
対応をめぐって

統廃合に伴う具体的諸問題

3月の集会準備



所在地) 東京都千代田区一ツ橋2-6-2  
 (交通) ●地下鉄東西線九段下駅(出口6)  
 ●地下鉄三田線神保町駅(出口A6・A8)  
 ●地下鉄有楽町線神保町駅(出口A1)  
 ●地下鉄半蔵門線神保町駅(出口A1)

%で後期に60%になっている。募集停止の延期は考えていない。

両国守る会の方とは議論をしている。先月生徒や保護者と向こうで話をした。基本的にはご理解を頂いていると思っている。台東に移転した時のメリットを検討している。11月早々にも話し合うことになっている。

荻窪については、耐震工場の必要がある限り、どちらにせよ耐震工事はやる。基礎の補強が必要があるのではないかとということには、専門の技術者と相談しなければならないので回答出来ない。校舎の耐久年数は使い切るというスタンスだ。鉄筋は60年である。改修で開設したい。

両国守る会： コンセプトが分からずに受けてきた生徒が多いということであったが、現場の先生が分かっていない。それが要因の一つだ。周辺の学校募集定員と同じものが開校されているので定員はオーバーしないというが、全都から昼夜間に集まってきている。これが原因だ。

都教委： 新しいタイプの学校なので、全都から集まる傾向がある。最終的にチャレンジ4校、昼夜間が5校、山吹や立川など11校になる。これで最終的には地元の生徒が通えるようになる。PR不足があるのかも知れない。様々な学校をつくっているの理解されていない部分があった。

両国守る会： チャレンジでは当初から見れば倍率は低くなるが数年は傾向が続く、すると募集停止が先行して地元の生徒が入学できない事態が考えられる。

都教委： 人気先行かなとも思うが3校やった、来年はまた増える。数字的に見れば桐ヶ丘が7倍以上あったが、これが3倍弱。泉が5倍、大江戸が4倍となった。段々落ち着いて行く傾向にある。学校が増えてくるのでそれでも倍率は減る。9校が開校されれば選択肢が落ち着いていく。

F校守る会： 荻窪にできる昼夜間では募集が始まる時には周りの夜間定時制の募集がない。これが問題だ。三次や四次をやる学校がない。そういう状況で選択肢が広がったのではなく狭まった。落ちたら行くところがなくなる問題だ。中央線沿線全体でそうなる。荻窪の校舎に耐震上の問題があるならなぜもっと早くやらなかったのか。昼夜間をつくるからではないのか。これまで10数年その危険な校舎に放置されてきたのか。その学校が続くのならば改修にも理解がされるが、その学校の最後の2年間がブレハブと言うのはおかしい。保護者は知らされていない。

都教委： 耐震工事は順次進めてきた。新しい学校の開校に合わせてという疑念は当たらない。全て順次やっていくというスタンスだ。効率から見れば新しい学校が立ち上がる時の改修と合わせて行う必要がある。

O校守る会： チャレンジはみんな見てきた。泉を見た時に沢山のフリースクールの業者がパンフを配布していた。沢山の種類があって内容の違いを保護者が理解出来るはずがない。Y校で3年前に7人落ちた。全日制の1次・2次、定時制の2次と落とされればもう受験しない生徒もいる。うちはO校にいったが、給食がおいしかったが今度親子になるとか、機内

食を毎日食べるのか。Y校から一橋がどれだけ遠いか分かっていないのか。Y校の伝統も引き継ぐと言うがどうやって引き継ぐのか。

両国守る会： O校の今の話は深刻だ。もう一度計画を現場



場の声を聞き直して練り直してほしい。一番最初に関係者の声を聞いて進めてほしいという要請をした。今の話を真摯に受け止めてほしい。部長なり教育長なりにあげてほしい。

K校： 国連の勧告と東京弁護士会の意見についてはまだ触れられていない。

都教委： 国連の勧告は日本政府に出されたもので、国から特別のお話しはない。先ほどのコンセプトが分かっていないという現実については受け止めて対応していきたい。グループ方式にもご理解を頂くために心を込めたものをつくっていく。

両国守る会： 国からと言われていないので、というのはおかしい。都が名指しされたことについては見解を持つべきだ。国からの連絡がないのでコメントしないでは済まない。

司会： 次回にお答えをお願いしたい。

代表： 今日はありがとうございました。厳しい話になったが、子どもたちにとって切実な問題だ。十分話をしていきたい。

文責：事務局後藤（久留米定）

## 守る会拡大幹事会報告

11月20日（土）に拡大幹事会が開催されました。以下概略を報告します。

、前回の都教委要請の経過と今後の方針について

森代表が都教委要請後の状況を次のように報告した。先週これまで都教委との窓口になっていたMさんが都教委の藤本課長と連絡し、年内にもう一度要請したい旨の話をした。その時教員の発言が多いということで受けられないと言われた。そこで森代表が直接連絡した。教員の発言が特に後半にあった。守る会は教員主導という思いも持たざるを得ないと言われた。それに対し森代表が守る会・連絡会は父母や同窓生を中心に組織され、教員はサポートしているだけと反論した。それに強い異論はなかった。話し合いの最初の段階で撮影について事前に了解を受けていないとも言われた。撮影についてはその都度通告する。内容についてはその程度だった。問題がまだ残っているので話し合いをしたいと伝えたら、会の代表と話をしたいと言われてた。あれは一度終わっているのもう一度同じことをやっても回答は同じだから意味がないと言われた。もう少し小さい場で詰めた話をしたいと提案され

た。今後の段取りについても話していきたいと言われている。従来は事前に文書を出して来たが今回は都教委からそのような要請がなく、当日だったので内容が希薄になったのかもしれない。いろんなところを代表している人がいるのでみんなで話して行きたいと申し入れたが、前回と同じ形式ならば応じられないと回答された。今日どうするか検討してほしい。

この点について討論を行いました。多様な意見が出されましたが、ここでは討論の詳細は省略し結論だけを記述します。

回答の不十分さは整理して、不十分というか課題というかは別として整理して持っておく。代表団と話をしたということなので要請の進行について整理する。代表との話は、要請をスムーズに進行させるための打ち合わせであることをはっきりしておく。代表が中心に連絡を取ってもらいなるべく早めにやる。

、次回都教委要請で主に検討すべきこと

- ・チャレンジなどが全部立ち上がれば倍率は高くないというのが都側の見解だったが、ではその過程はどうするのかは答えていない。
- ・新しい学校が立ち上がっても募停を延期せよということ
- ・地域的な偏りをどう考えているのか
- ・コンセプトが分かっていない入学があるということが中学の先生の進路指導の問題だとしているが、徹底するようなどどうするのか。ミスマッチだというのが都教委はどういう生徒がマッチしているのか
- ・入学出来なかった生徒が実際にどの位出ていて、どうしているのか調査せよ。都全体として足りているが、もし足りなくなったら募停を検討するのか。6学区の事態の把握を。
- ・江戸川の中学の先生が来ていたが定時制にも落ちてしまったと言っていた。
- ・国連と東京弁護士会について
  - 、今年度のイベントをどうするか
- ・定時制のことを取り上げている組織に集まってもらって交流する場
- ・中学や小学校の保護者が実情を知らない。高校がどうなっているのかを都民に知らせる必要がある。共通のピラをつかって全都一斉宣伝などが必要だろう。
- ・3月になれば来年度入試の結果がある程度分かっているので、これを集約する必要がある。入れなかった側の声を反映させる必要がある。
- ・大江戸の様な現象が来年どうなったのかを、江戸川や杉並や把握出来るところだけでもやれば良い。
- ・実際の進路担当の先生から資料を集める様なことを考える必要がある。
- ・無理をせずに大人数ではなくても良い。

**・ 3月27日(日)午後 守る会・連絡会のイベントを行う。**

## 都教委と守る会連絡会役員との「協議」報告

12月2日(木)東京都教育庁 学務部藤本龍夫氏(都立高校改革推進担当副参事)と守る会代表との話し合いの場がもたれました。これは去る10月29日に守る会の要請に基づき行われた「話し合い」を受けて、その継続等について話し合うために都より要請を受けて行われたものです。守る会からは森代表と寺川副代表、山川氏(両国定時制守る会)が代表として出席しました。

冒頭「守る会としては前回の話し合いでは要請内容に対してほとんど返事をもらっていないと認識している。継続して話し合いを求めると」と表明。藤本氏は「都としては前回の話し合いの場で応えられることは既に答えている。これまでも個々の問題をその場で答えるということとはしていない」と10/29の内容での話し合いの再度の開催は受け容れられないという立場で議論は平行線となりました。

守る会は「10/29の話し合いを継続することについては双方の認識が食い違ったままではあるが、それとは別に、今後新たに生じるであろう問題も含めてあらためて守る会と都担当者との話し合を今後も継続して行ってもらいたい。」と改めて要請。都側は「意見を聴くことは今後も継続してゆく」と確認。

今後の話し合いの事前の準備として双方が必要な情報の交換と論点整理等を事前に行う事で了解した。